

第21歌 弓の引き競べ

ペネロペは屋敷で弓の腕競べを開催し、**オデュッセウス**の弓を用いて、十二の並んだ斧を射通した者に嫁ぐことを約束する。求婚者は次々と弓を試みるが失敗する。オデュッセウスは豚飼と牛飼に正体を明かし、求婚者討伐の協力を求める。オデュッセウスは弓の腕競べに名乗り出て、弓を試みて成功する。

内容

ペネロペ、弓の腕競べを開催する **ペネロペ**は女中たちを随えて、屋敷の外れにある倉庫に向かった。そこには弓と矢筒が置かれてあった。それは**ラケダイモン**の勇士**イピトス**が**オデュッセウス**に贈ったものだった。妃は弓と矢筒を手に、求婚者の群がる広間に向かった。妃は柱の傍に立ち、求婚者にむかって、「一同よ、さあ、ご所望のものは、腕競べの賞品として賭けますから、試みられよ。ここに置いたオデュッセウスの弓を用いて、十二の斧を射通した人に私は随っていきます」

テレマコス、弓を試みる 妃は**エウマイオス**に、弓と斧を置くように命じた。豚飼は泣きながら主人の弓を置いたが、牛飼もそれを見て泣いた。**アンティノオス**は、「愚かな田舎者ども、なぜ泣いて悲嘆にくれる妃の心を乱そうとするのか。弓はそこへ置いてゆけ。この弓を張るのは容易な業ではあるまいが」といったが、心中では成功するつもりだった。**テレマコス**は、「求婚者の方々よ、競技にかかれよ。私もこの弓を試みてみよう」**テレマコス**は弓を試みはじめた。弓を張るのに三度失敗して、四度目に成功しそうになった時、**オデュッセウス**が顎をしゃくって、はやる息子をとどめた。

求婚者たち、弓を試みる **アンティノオス**が右回りで順にいこうと提案し、一同は賛成した。最初に、**レオデス**という男が試みたが、弓を張ることはできなかった。アンティノオスはその弱さを罵った。彼は山羊飼**メランティオス**に弓を温める火を起こさせ、脂のかたまりを取ってこさせた。求婚者たちは弓を次々と試みたが、張りうるものは一人もいなかった。

オデュッセウス、豚飼と牛飼に正体を明かす この時、**オデュッセウス**と牛飼と豚飼は中庭に出た。オデュッセウスは二人にいった。「おぬしらは今ここにオデュッセウス王が帰ってこられたら、どうするか」**ピロイティオス**は主人の無事を祈り、主人に助力することを誓った。**エウマイオス**も、同様に主人の帰還を祈った。**オデュッセウス**は、「その男はここに帰ってきているぞ、このわしがそれだ。わしの帰国を待っていてくれたのは、召使の中ではそなたら二人だけであると分かった。幸いに求婚者どもを討ち果たせたならば、二人とも財産を分け、家を建ててやろう。では、わしがオデュッセウスという証拠をみせよう」といって、足の傷痕を見せた。二人は再会を喜び、オデュッセウスと抱き合った。

オデュッセウス、手筈を決める **オデュッセウス**はいった。「では、これからの手筈を決めよう。求婚者どもは、わしに弓と矢筒を渡すまいとするであろう。その時は**エウマイオス**よ、そなたは弓を持ってきて、わしに手渡してくれ。そして女たちには、部屋の扉に鍵をかけるよう言いつけるのだ。そして**ピロイティオス**よ、そなたは中庭の門にかんぬきをかけ、縄で縛りつけておくように」そして三人は別々に屋敷に戻った。

オデュッセウス、腕競べに名乗りでる **エウリュマコス**は弓を試みたが、弦を張ることはできず、「われらは、**オデュッセウス**にこれほど力が劣るとは、後世の者に聞かれたら恥辱ではないか」と嘆いた。**アンティノオス**は、「そんなことにはなるまいよ。今日は**アポロン**を祀る神聖な日だ。こんな弓など片付けてしまおう。明朝続きをして、この競技を終わりにしよう」といった。一同は酒を飲み交わした。オデュッセウスは、「求婚者の方々よ、どうかその弓を私に試させてもらいたい。かつての体力が今も残っているか確かめてみたいのでな」といった。

求婚者たち、オデュッセウスを罵る アンティノオスは、「このろくでなしめ、われら貴き者の間に交じって食事ができるだけでも、ありがたいと思わぬのか。お前は酒にやられたのだ。よいか、お前が弓を張ろうなどとすれば、船に乗せて、残忍なエクトス王のもとへ送ってやるぞ」といった。ペネロペは、「アンティノオスよ、この屋敷の客人に無礼な態度は良くありません。その客人が弓をはることができたら、私が彼の妻になるとでも思っておいでか」といった。エウリュマコス は、「われらが弓を張れぬのに、この男が弓をやすやすと張ったら、われらの恥ではないか」といった。ペネロペは、「王侯の資産を食い荒らすような者に、良い評判などありえようか。さあ、弓をこの客人にお渡しなさい。どうなるか見てみましょう」といった。テレマコス は、「母上、この弓をどうするかは、私しか決めることを許しません。母上は、自分の部屋にお帰りになって、後のことは男たちにお任せ願いたい」といった。妃はあっけにとられた心持ちで自分の部屋に戻ると、しばらく夫を想って泣いていたが、やがて眠りについた。

豚飼と牛飼、屋敷を閉めきる 豚飼が弓を持ってゆこうとすると、求婚者たちは「豚飼よ、なにをする、心狂ったのか」と一斉にわめきたてた。豚飼は恐れをなしてためらった。テレマコスは、「爺よ、構わず弓を持っていけ。誰のいうことはいはいと聞いていれば、ろくなことにならぬぞ」といった。豚飼は、広間を通り、オデュッセウスに弓を渡した。それから、エウリュクレイアを呼び、「テレマコス様の命令じゃ。この部屋の扉を閉めよ。また閉め切った部屋から、うめき声や物音が聞こえても、女たちは仕事をつづけよ、とのことだ」といった。一方、ピロイティオスは中庭の門にかんぬきをかけ、縄で縛っておいた。

オデュッセウス、弓を試みて成功する オデュッセウスは弓を手にとって点検していたが、調べ終わると、事もなげに弓を張った。求婚者たちは顔色を変えたが、その時ゼウスは轟々と雷を鳴らし、吉兆をあらわした。オデュッセウスは矢をつがえ、弦を引き絞り、狙いを定めて矢を放った。矢は斧の柄を刺す穴を全て、見事に射抜いて外に抜けた。オデュッセウスはテレマコスに、「あなたに世話になったこの客は、あなたに恥をかかせないですみました。ところで、アカイア人の方々に夕食を調べるとすれば、すでにその時刻じゃ」といって、目配せをした。テレマコスは剣を肩にかけ、槍を握ると、父の傍らにすっと立ち上がった。

関連

人名

| | |
|--------------------------|--|
| アテナ | ペネロペ に弓の競技会を思いつかせる |
| ペネロペ | 弓の競技会を開催する |
| オデュッセウス | 乞食に身をやつして、誅殺の機会を待つ |
| イピトス | ラケダイモンの勇士。 エウリュトス の子。 オデュッセウス に弓を贈った |
| オルティロコス | メッセネ の領主 |
| ゼウス | 雷で吉兆をあらわす |
| ヘラクレス | イピトス を殺した。 |
| エウマイオス | オデュッセウス に忠実な豚飼 |
| アンティノオス | 求婚者のリーダー格。エウペイテスの子 |
| テレマコス | 父とともに、求婚者への復讐の時を待つ |
| レオデス | 求婚者。オイノプスの子。蛮行を嫌う占い師。最初に弓を試みる |
| メランティオス | 山羊飼。 オデュッセウス に不忠 |
| エウリュマコス | 求婚者のリーダー格。ポリュボスの子 |
| アウトリュコス | オデュッセウス の祖父 |
| ピロイティオス | オデュッセウス に忠実な牛飼 |
| アポロン | 弓の神 |
| エウリュティオン | ケンタウロス 族。酒で失敗して不具となった |
| ペイリトオス | ラピタイ 族。 エウリュティオン をもてなした |

[エケトス](#) 残忍な王。誰彼かまわず不具にする
[エウリュクレイア](#) [テレマコス](#)の乳母

地名

[ラケダイモン](#) [スパルタ](#)のこと。 [イピトス](#)の出身地

[メッセネ](#) [スパルタ](#)近くの町

[イタカ](#) [オデュッセウス](#)の故国

[ピュロス](#)

[アルゴス](#)

[ミュケナイ](#)

[パルナッソス](#) [アウトリュコス](#)の故国

[エリス](#) [イタカ](#)近辺の土地

[前へ](#) ... [オデュッセイア](#) ... [次へ](#)